

Title	中国のテクノポリスの現状分析
Author(s)	張, 晶
Citation	年次学術大会講演要旨集, 7: 150-154
Issue Date	1992-10-22
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5359
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

中国のテクノポリスの現状分析

○張 晶 (中国管理科学研究中心)

テクノポリス或いはサイエンスパークと呼ばれるハイテク産業とR&D機構の集中団地は、中国では新技術開発区(以下「開発区」と略称)と言われている。中国の開発区の発生と発展は世界の新技术革命の挑戦に応じて出来たものであり、中国经济の改革、開放政策の産物でもある。現在、その事業の開拓段階を終えて、規模としても相当なものとなっている。国家に批准された27、地方政府に批准された11、合計で38に達した。

こうした38の開発区は、中国ハイテク発展の重要な基地になり、国民経済の発展に新しい活力をもたらした。ここで、1990年までの全国の開発区の発展状況を紹介する。全国38の開発区の総面積は559.3平方キロに達した。ハイテクの商品化、産業化国際化という「三化」を趣旨として、国家の伏恵政策の下でこうした開発区は著しい成果を遂げた。わずか1989、1990年の2年間で開発区の企業の生産高は76億元、収入は107億元、納入した税金は14億元、輸出による利潤は9.5億元にのぼった。そして、これら4つの数字は大幅に増加する傾向にある。1990年度における上記4つのデータはそれぞれ前年度の245%、151%、184%、164%となっている。特筆すべき点は、丁度中国经济の不景気と整頓の時期にもかかわらず、こうした優れた成果があげられたということである。だからこそ、国内外の注目を集めたのである。

2年間の積立によって、1990年までに全国の開発区の企業固定資産は24.6億元、年末流動基金総額は52億元に達した。現在、開発区の従業人数は12.8万人に達し、そのうち大卒以上の教育を受けた人は35.2%を占めている。

1990年版国際サイエンスパーク協会の統計によると、我が国の開発区の三つの指標（企業数、従業人数、面積）は、世界の進んでいるテクノポリスとサイエンスパークの指標に近づいている。例えば、中国で上から十番目までの開発区的面積と、国外のそれぞれとを比べると、中国の方が大きい。又、従業人数と企業数も同じくらいかあるいはオーバーしている。（表 1, 2, 3 参照）

我が国の開発区には次の特徴がある。

1. 上で紹介したように、発展のスピードが早い、相当の規模になっている。
2. 開発区と地方経済の発展とを密接に結びつけた。各地の開発区は、地方政府の支持を得て、地方経済の企画に組み込まれている。政府の指導者の多くが、“科学技術によって市（省）を振興する”ということのを重要な戦略の一部と認めている。開発区の生産高は地方経済の総高のなかでも段々大きくなってきた。例えば桂林市開発区は1990年の工業生産値を4000万元増加させた。桂林市だけで全市の5%をしめた。
3. 開発区における伝統産業への影響が著しい。
その影響と役割は、① 技術と製品の移転によって大中企業の活力をもたらしたばかりでなく、投資および建設の重複を避けることが出来た。

② R & Dのテーマは伝統企業の技術改造にむけられ、その製品と技術は国内市場を
保証することが出来た。③ 伝統企業の生産と研究の潜在能力を利用し、かつ
開発区の伏恵政策とむすびつけて、製品の国内外の競争力を高めた。

4. 改革、開放政策は開発区の建立の前提である。

市場経済と国際投資は開発区の建立条件となっている。だから言うまでもなく、
中国は、改革、開放政策がなければ何も言うことは出来ない。 開発区における企業は、
国家の計画ではなく、市場のニーズに導かれている。その製品は国家が販売するのではなく、
企業自身が国内外の市場で競争して販売するのである。 国家の役割は税金、貿易、金融など
の面での伏恵政策と法律によって、ハイテク産業の発展に役立つ環境を作り、資金、原料、
基本建設などの面で、ハイテク産業の発展を保証しているのである。 いずれにしても、
国家はマクロ誘導の役割を果たすにすぎない。こうした企業と政府の
新しい関係がすでに漸次形成され、計画経済と市場経済を結ぶ手本となっている。

5. ハイテク企業は、開発区の活力の要素である。

企業は経済の細胞であり、企業運営のメカニズムと管理システムの改革は、開発区内部
では、より早くおこなわれてきた。R & Dと産業と販売の一体化の運営メカニズムは
開発区発展の重要な原因である。

開発区における企業の所有制は、国営、民営、合併と多種類の形で共存している。
こうした企業はお互い協力、競争してどれもすみやかに規模が拡大している。

6. 金融部門の参与と支持は開発区の発展の保証である。

ハイテク産業は実際のところ技術と資本の結合と言えるわけである。

開発区のハイテク産業は1990年までで、国家からの投資は6億元しかないが、銀行や企業などからももらったお金は20億元以上にもなっている。

7. 国際化は開発区の発展方向である。

世界の経済と技術のボーダレス化にともなって、中国の開発区では、R&Dと産業と販売の一体化の運営メカニズムは企業の集団化、国際化の条件になるばかりでなく、そうした道をあゆまざるをえない。1989年には 開発区における輸出の出来た企業は87であるが、1990年になると151になった。こういった企業は企業総数の9%でしかないが、生産高は総高の61%を占めている。

以上の分析により、中国の開発区はその歴史こそ長くはないが、全体ですでにスタート段階を経て、新しい段階を上りはじめた。
現在、まだ各開発区のバランスはとれていないが、全国の経済と同じように、^鄧小平の呼掛けに応じて、もっと早くなることが予想される。

表 1 : 総面積の比較

区	面積 (平方公理)	区	面積 (平方公理)
1. 北京開発区	103.0	Oxmoor Valley High Technology Park	Birmingham, Alabama 30.4
2. 廣州天河	48.0	Research Triangle Park	Research Triangle Park, NC 27.1
3. 重慶開発区	45.0	Oak Ridge Knoxville Technology Corridor	Knoxville, Tennessee 24.3
4. 武漢東湖	43.0	新竹科技工業園 (中国、台湾)	21.0
5. 長沙開発区	40.0	Le Parc technologique de Quebec	Sainte-Foy, Quebec 16.2
6. 長春工業園	32.0	Cummings Research Park	Huntsville, Alabama 14.6
7. 南寧開発区	26.0	Dartmouth Lebanon Property	Hanover, New Hampshire 10.9
8. 成都開発区	24.6	University Research Park	Charlotte, North Carolina 10.1
9. 瀋陽開発区	22.2	Hon Rapids Industrial Park	Richland, Washington 8.9
10. 齊南開発区	15.9	Research Forest-The Woodlands	The Woodlands, Texas 8.1

表 2 : 人数の比較

区	人数	区	人数
1. 上海漕河泾	37342	Research Triangle Park of North Carolina	Research Triangle Park, NC 32000
2. 北京開発区	15588	Stanford Research Park	Stanford, California 27000
3. 成都開発区	12858	Cummings Research Park	Huntsville, Alabama 18000
4. 天津開発区	9947	新竹科技工業園 (中国、台湾)	13626
5. 石家庄区	7906	Oakland Technology Park	Southfield, Michigan 6000
6. 武漢東湖	4160	University City Science Center	Philadelphia, Pennsylvania 6000
7. 大連区	3467	Oak Ridge Knoxville Technology Corridor	Knoxville, Tennessee 3800
8. 瀋陽開発区	3263	Central Florida Research Park	Orlando, Florida 3200
9. 長春工業園	3094	Hetrotech	Brooklyn, New York 3000
10. 長沙開発区	2255	Hopkins Bayview Research Campus	Baltimore, Maryland 3000

表 3 : 企業数の比較

区	公司数	区	公司数
1. 北京開発区	930	Minnesota Technology Corridor	Minneapolis, Minnesota 220
2. 瀋陽開発区	203	Cummings Research Park	Huntsville, Alabama 155
3. 天津開発区	135	University of Pittsburgh Applied Research Center (U-PARC)	Pittsburgh, Pennsylvania 125
4. 廣州天河	133	Research Center (U-PARC)	Philadelphia, Pennsylvania 105
5. 重慶開発区	106	University City Science Center	New Haven, Connecticut 100
6. 武漢東湖	101	新竹科技工業園 (中国、台湾)	82
7. 長春工業園	89	Science-Based Industrial Park	Limerick, Stamon Region, Ireland 68
8. 西安開発区	71	Plassey Technological Park	Stanford, California 60
9. 長沙開発区	67	Stanford Research Park	Orland, Florida 58
10. 三州開発区	62	Central Florida Research Park	West Lafayette, Indiana 55